

**【問1】** 下記の論文群（別冊：A～I）から1つを選び、看護学、理学療法学、作業療法学、放射線技術科学のいずれかの専門領域における実践の観点にたち、選択した論文の論旨について各自の考え（研究方法、データ分析法、結果の解釈、考察、専門分野との関連性、等）を述べよ。文字数は1000字以内とする。

**【問2】** 問1の解答を基に、研究方法や結果の解釈に対する各自の新しい提案を述べよ。文字数は500字以内とする。

-論文群-

- A：青島恵美子，島袋香子．宿泊型産後ケアにおいて助産師が提供すべきケアの構成要素の明確化．日本母性看護学会誌 2023；24(1)：15-22
- B：塩入久仁子，山口大輔，松永保子．看護師の自己教育力と他者からの支援との関連．日本看護研究学会雑誌 2024；47(1)：51-60
- C：田中裕子．北海道胆振東部地震における地域包括支援センター保健師の活動経験に基づく減災に有用な平常時の活動．日本地域看護学会誌 2023；26(2)：13-22
- D：石野晶大，山田和政，牧芳昭．回復期リハビリテーション病棟に入退棟した低栄養リスクを有する脳卒中患者における栄養状態の推移の実態と日常生活動作改善度への影響．理学療法学 2024；51(3)：68-75
- E：岡崎陽海斗，大坂祐樹，古谷英孝，山下耕平，星野雅洋．腰椎固定術後患者の術前体幹筋量は患者報告アウトカムの予測要因になる - 骨格筋量指数を含めた調査 - ．理学療法学 2023；50(3)：61-68
- F：葛迫剛，村田伸，合田明生，中野英樹，白岩加代子，堀江淳，野中紘士．1年後に骨量が低下する地域在住高齢女性の身体・生活機能の特徴．理学療法学 2023；50(4)：122-128
- G：長谷川寿美玲．脳性麻痺児のADLへの影響因子—多変量解析からの考案—．リハビリテーション医学 1984；21(5)：341-347
- H：武中章太，柴田徹，藤田良．脳性麻痺児の入院訓練による日常生活動作の変化．リハビリテーション医学 2006；43(5)：291-299
- I：大崎洋充，久保田千裕，石川一磨，佐藤充，安本佳章，深井翔平，坂下哲哉．モンテカルロシミュレーションを用いた<sup>177</sup>Luイメージングにおける定量的精度と変動性の検証．日本放射線技術学会雑誌 2024；80(6)：593-604